

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	4 家庭・地域・学校で取り組む子どもの育ちの支援	(1)家庭教育の充実	<p>①家庭教育に関する機会や情報の提供 ②親子のふれあい体験活動等の充実</p>	<p>【中田委員】 例えば、調査結果からは、全体の4割強が「家庭教育に関する機会や情報の提供」を重点化として希望している。現状では、どのような機会や情報の提供方法が取られているのか。現状に対する改善要求としてこうした提供を強く求めているのか、一定評価しつつさらなる充実を求めているのかを読み取ることが困難。</p> <p>【李委員】 ①家庭教育学級の参加者が少ない。 ②親子ふれあい体験活動の内容と場所が限られている</p> <p>【圓谷委員】 ①家庭教育に関する情報の提供は積極的に進められているが、共働きで余裕のない中で子育てしている現状から、周知参加までに至らない。 ②家庭教育は個々のやり方でできていると考えている人が多いのではないか。講演会等の参加者数はコロナ禍よりも少なくなっており、毎年減少傾向となっている。 ③郡山市はモノ・コト・ヒトなどの資源が大変豊富で、児童期を対象としたふれあい活動の機会が多い。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①成年年齢18歳と20歳成人 ②核家族になる傾向大だが、親子の家族も大切にしたい。</p> <p>【鈴木 由佳委員】 家庭教育学級生合同学習会は非常にいい内容だったが、講演の後に行われた分科会は欠席者があり、参加者を増やす取り組みが必要ではないか。</p>	<p>【中田委員】 「家庭教育に関する機会や情報の提供」を進める際には、どのような方法が適切であるのかも同時に検討する必要がある。 これらは、相談体制の在り方や、地域で子どもを育てる環境づくりのあり方とも関連して考えるとされる。</p> <p>【李委員】 ①周知拡大、子育て世代の関心事を調査し、内容を充実させる。 ②市の施設以外に民間施設などと連携し、場所と内容を充実させる。</p> <p>【圓谷委員】 ①誰もが、どこでも、いつでも学べる機会と家庭教育に関する情報の提供 ②郡山市のもの・こと・人を生かした幼少期、児童期の体験活動からの親子、家庭のふれあい活動の推進 ③子どもの自己肯定感を高めていくためには、体験はものすごく重要で、特に親子のふれあいを通じた体験は大変重要である。幼少期・児童期から長い期間で、かつ、親子だけではなく家庭というくりに広げながらふれあい活動の推進をしていくといいのではないかと。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①青年としての立場の学び(成人式のパンフ)、20歳のお祝いと、初心を表せるノート配布 ②家族の共同体験とうるおいを大切に、を呼びかける。</p> <p>【圓分委員】 家庭教育に関する学習機会や体験活動等の内容の充実が必要。また、子育て、スポーツ、自然体験、文化面の体験を主体としている民間団体の積極的な活用と連携も必要である。</p>
		(2)幼児期の教育の質の向上と家庭の養育力の向上	<p>①幼保小連携のさらなる充実と強化 ②子育て家庭に対する相談体制の充実</p>	<p>【李委員】 相談内容の複雑化</p> <p>【圓谷委員】 家庭の悩みが複雑化し、乳幼児からの関わりから起因する問題が保育や学校教育の保障を不安定にする傾向がある。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①外国からの転入者の受け入れ ②現実には、子どもの学校のことで時々休んでいると、「もう来なくていい」と言われたり、給料に響くところもある。事業者全体の問題である。 ③今は結婚しない人がとても多いので、結婚したくなるようなまちづくりも大事</p> <p>【中田委員】 家庭の教育力が低下していると言われていたが、ただ、各家庭だけにそれを求めるのは、今の親御さんたちの状況から見ると大変厳しいのではないかと。</p>	<p>【李委員】 子育ての悩みについて、一部は専門家に指導してもらう必要があるが、ほとんどの場合は子育て世帯同士のお付き合いの間で解決されるので、子育て同士の交流の機会を増やすことも相談対策の一環になるべきだと思う。</p> <p>【圓谷委員】 ①こども部と教育部の部局内連携による既存事業の再構築 ②子育て家庭に対する相談体制の為のカウンセラー派遣事業を保育所・こども園・幼稚園へ拡充する。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①幼保小連携講座の継続 ②ニコニコこども館に各幼保を動画で紹介コーナーを設ける。 ③日本の生活習慣を学ぶ集会や日本語指導者の配置、自動翻訳機の貸与で早い受け入れ ④事業主が子どもの教育のために協力するということを広げる必要がある。 ⑤一番効果的なのは、子育ては楽しいと思っていただくこと。今後は、広報こおりやまで楽しい郡山を紹介していただきたい。</p> <p>【中田委員】 一人っ子で大きくなっていく子ども、一人っ子のお父さんと一人っ子のお母さん、もしくは、ひとり親の家庭の状況などを考えると、家庭、親子の周辺に地域との関係をどのように温かくつないでいくかという視点がとても重要である。</p>

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	4 家庭・地域・学校で取り組む子どもの育ちの支援	(3)青少年活動の支援	①次世代を担う人材育成 ②青少年の社会参加や相互交流の促進 ③青少年団体等の育成・支援	<p>【李委員】 青少年たちは社会や地域への関心度が低い。</p> <p>【圓谷委員】 青少年の社会参加の機会が部活動、スポーツ少年団、学校教育に委ねられる傾向にある。</p> <p>【鈴木隆委員】 青年の人間関係と後輩指導 (2000年ごろはあったが、現在の様子は不明 青少年会館で)</p>	<p>【李委員】 ①地域と学校(小中高大)の連携を拡大し、子どもたちに地域へ助言や貢献できる機会を増やす。例をあげますと、郡山市ふるさと納税の増進方法について、ユースワークを各学校で討論会を開催するなど、子どもたちの故郷への関心を高め、地域一員であることも実感得られることも期待できる。 ②身近にいる外国人の子どもや大人は、日本語をあまり話せないかもしれませんが、皆自分の文化、言葉、国のいろいろなもの、今まで経験したものを背負って来ている。その経験を活かして、お互いに勉強するなどするといいい。外国籍の人たちは人財で、宝である。ご縁で郡山市に来ているので、ぜひこの宝を大事にして、その良さを是非活かしたい。ご本人も、存在感があること、求められていることを感じられ、お互いのメリットにつながる。小さい頃から隣に外国人がいて、公園で普通に遊んでいるという経験があれば、大人になっても外国人も普通の人と思うようになる。</p> <p>【圓谷委員】 ○地域伝統文化・スポーツ振興、世代間交流、キャリア教育の機会など青少年を主体とした事業の推進</p> <p>【鈴木隆委員】 良さを先輩から引き継ぎ、地域での主体的活動(ゴミ拾いなど)、行動で心の引継ぎ。町内会で活動等の情報交換を、時には賞を</p>
		(4)家庭・地域・学校等の連携	①相互学習や交流の場の創出 ②地域における家庭教育支援体制の充実	<p>【李委員】 コロナの影響で参加者数はまだ戻ってきていない。</p> <p>【圓谷委員】 地域の家庭教育支援体制を担う人材が減少、高齢化している。また、家庭の姿も多様化している中で、個々への支援が届きにくい。</p> <p>【鈴木隆委員】 地域の安全・安心や特徴の把握</p> <p>【圓分委員】 家庭教育の支援団体は市内に数多くあるが、それぞれが個々に活動しているので、それらをネットワークでつなぐ連携が必要である。</p>	<p>【中田委員】 孤立化しがちな各家庭を地域で支援する体制の必要性は増加すると思われるが、家庭の状況により、支援のありようも多様化する。その丁寧な対応体制の構築も、必要となる。地域の中に相互学習や交流の場は、社会が孤立化傾向を示すほどに、重要性を増すが、そうした共同的な学び合うコミュニティを支える支援者をどう育て、どう確保するかは重要な課題となるのではないと思う。</p> <p>【李委員】 開催方式には工夫が必要と感じる。</p> <p>【圓谷委員】 ①多様化する家庭教育を支援する団体のネットワーク作りとその為の研修会の実施 ②施策4の「②地域における家庭教育支援体制の充実」について、家庭の姿も多様化しているので、多層的なシステムの構築がこれから重点的に取り組むべき事項になっていくのではないかと。支援団体のネットワークづくりのための研修会なども設けながら地域における支援体制の充実を図ればいいのでは。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①地域の高齢者に、地域の説明や案内を依頼 ②PTA活動人数を祖父母等の協力で増やす。</p>

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	4 家庭・地域・学校で取り組む子どもの育ちの支援	(5)子どもの良好な成育環境の確保	①地域で子どもを育てる環境づくり ②安全・安心な居場所づくり	<p>【李委員】 女性の社会進出とともに、共働きの家庭が増加する中、休日や長期休み時に安心、安全に預けられる場所が求められる。</p> <p>【園谷委員】 児童クラブ、長期休業中の公民館事業、中学生の自主学習の場の提供が地域公民館等で実施され、子どもの居場所となっている。その反面、それを支える人材の確保や環境が十分といえない。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①地域の子どもの活動計画 ②もう高齢になって子どもを助けることができないのに、「子ども110番の家」と貼ってある場合があり、毎年確認が大事である。 ③今は公民館で子どもたちが一生懸命勉強している。中央公民館だけでなく各公民館でもそういう工夫があればいい。学校の児童クラブのほかにもそういう安心して居られる所をもう少し広げてほしい。子どもたちが自由に遊べる広場がどのくらいあるのかを調べることも大事ではないか。</p> <p>【園分委員】 今、子どもたちが巻き込まれる犯罪や事件が増えているので、今後はそういうことに巻き込まれてしまった時に逃げ込める場所とか相談できる所についても深く考えていかないといけないのではないかと。</p>	<p>【李委員】 地域の方々や民間団体、市が連携する「子ども食堂」の増設、支援</p> <p>【園谷委員】 公民館、駅前ビックアイ施設、地域図書館、文化施設等の子どもの居場所とする試行期間による検証</p> <p>【鈴木隆委員】 保護者の役員等での行事に町内会による支援(町内会による校内でのふれあい活動も)</p>
	5 生涯を通して学び、地域づくりにいかす環境の整備	(1)一人一人の学びの推進	①人生100年時代に対応した生涯学習環境の充実 ②図書館資料の提供と読書活動の推進 ③ICTの積極的活用 ④学びを支える人材の育成 ⑤施設の効率的運営と整備	<p>【中田委員】 人生100年時代における生涯学習環境の整備や図書館資料の提供に関わり、ICT環境の積極的活用を視野に入れることは、一定、理解できる。そうした情報社会への対応を意図した環境整備とそれをどのように市民のライフステージに現れる生活課題解決のための学習活動につなげていくか、そうした接続的機能に関する課題を明確にする必要がある。そこに、学びを支える人材の育成が重要なポイントとなるが、その専門的な力量に関してはさらなる検討が必要ではないかと。</p> <p>【李委員】 図書館の機能と役割の見直し</p> <p>【園谷委員】 地域の多様なニーズに応え、地区、地域公民館で定期講座が積極的に実施されている。より主体的な企画による自治運営への移行が必要。</p> <p>【鈴木隆委員】 スマホと読書のバランス化、百聞は一見に如かず</p> <p>【園分委員】 ①電子書籍の閲覧件数が、目標5万件に対して実績が14万件を超えたことから、ICTの充実やDX化の充実が重要になってくる。 ②郡山市には伝統文化が数多く残っているが、ほぼ高齢者の方が担われていることから、それをどのように支援していくかが大事となる。</p>	<p>【中田委員】 公民館等での定期講座の展開は一定程度、展開されているが、具体的な市民の多様な生活課題解決に向けて学習は、多面的でより実践的なかつ共同的な学習過程が必要だと思ふ。そうした多様な生活課題を構造化し必要な関連分野を複眼的に把握し、学習過程を組織できるようなコーディネータに長けた専門職員の力量形成とそれを可能とする研修の展開が大事ではないかと。 人生100年時代に向け福祉分野等の関連分野との連携の具体化も急がれる。</p> <p>【李委員】 図書館の機能を充実させるべき。従来の資料、図書の提供の他に、主導的に地域の良さをPRし、地域の振興、活性化に重役を務める。それから、インターネット環境を整え自宅からでも気軽に利用できるように整備する。地域ネットワークから全国ネットワークへつなげ、地域格差をなくすることも可能となる。</p> <p>【園谷委員】 ①リカレント教育、リスキングの機会の提供とその主体的な運営を通じた学びのを支える人材の育成 ②きらめきバンクはかなりの方が登録されています。活用の件数が減ったのは、コロナ禍もありますが、果たして今の市民のニーズに応えるような内容なのかという視点で見直すことも必要である。「市政きらめき出前講座」という、市の職員の方が講師をする講座も非常に良い内容だが、第4次に向けて再構築が必要ではないかと。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①ゲームやLINEに夢中になりやすいが、親が読書する環境づくりで読書のよさに気づかないか。読書記録ができる葉は親にも効果的 ②施設・事業所等を親と話し合いで体験化</p>

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
ともに学び、ともに育み、未来を拓く教育の創造	5 生涯を通して学び、地域づくりにいかす環境の整備	(2)生涯学習活動の支援	①学習機会や情報の提供 ②生涯学習実践者・団体の育成 ③地域活動への支援	<p>【李委員】 青少年たちに積極的に地域づくりに関わってもらうような仕組みづくり</p> <p>【圓谷委員】 コロナ禍以降の「生涯学習きらめきバンク」及び「きらめき出前講座」の活用に減少傾向がみられる。</p> <p>【鈴木隆委員】 ①公民館の解放(一般にはクラブや団体での活用だが…) ②きらめきバンクの情報など、公民館に行けばいろいろなもの分かるように集約しておいて、広報おひさまに、困ったことがあれば是非公民館に問い合わせてくださいと載せるといいのでは。 ③男の人は退職したら家の中ばかりにいて、出掛けるのは奥さんの買い物についていくくらい。公民館で話をしませんかと、外に引っ張り出すような取り組みがあるといい。社会教育の中の1つとして、家にこもっている人を引っ張り出せば、まちの活性化につながるのではないかと。</p>	<p>【李委員】 青少年に参加しやすいボランティア活動の機会を増やす。</p> <p>【圓谷委員】 市民のニーズに応える「生涯学習きらめきバンク」「きらめき出前講座」の再構築とその周知</p> <p>【鈴木隆委員】 自由に行き、自由に時間を過ごせる公民館に特に男性は、出たがらない傾向。出れば健康にいいし友もできる。(空き部屋の確保)</p>
		(3)文化・芸術・スポーツの振興	①文化芸術活動の充実 ②文化財の保存・継承と活用 ③生涯スポーツ・レクリエーションの推進	<p>【李委員】 高齢化による文化財継承の難しさ</p> <p>【圓谷委員】 音楽都市宣言してから、学校教育、社会教育分野での全国への発信やその認知度は高い。さらに、若手の人材も育成され地域文化の振興に貢献している。しかし、施設設備がそれに追いつかないのが現状である。</p> <p>【鈴木隆委員】 地域の個人の伝統や作品等の発表</p>	<p>【李委員】 文化財は保存、継承に留まらず、地域の皆さんに知ってもらい、誇りに思うように「愛郷心」につながる工夫が必要だ</p> <p>【圓谷委員】 音楽都市としての施設設備や既存施設の音楽文化振興施設兼用の整備</p> <p>【鈴木隆委員】 ①文化財、無形文化財の発表の支援(継続か) ②新しい施設の紹介と利用の勧めをする</p> <p>【中田委員】 社会教育施設の兼用の計画の策定過程にきちんと市民の方の参画を担保することは、大事なプロセスである。</p>
		(4)生涯学習の新たな展開	①地域課題解決に向けた仕組みづくり ②学びの成果をいかす環境づくり ③生涯学習とまちづくりとの連携 ④安全・安心なまちづくりのための防災意識の向上と国際化の推進	<p>【中田委員】 安全・安心なまちづくりは、防災との関連もあると思うが、社会的弱者が安全で安心な暮らしを送れると言った観点も必要だと思う。地域社会にどのような地域課題があるかについての精緻な調査にもとづく把握と学習が、地域課題の共有を市民に促し、その解決に向けた共同的な課題解決学習が展開される前提となる。最近の子どもの貧困問題や高齢者の老々介護問題等、多様な社会問題があることも含め「安全・安心」な地域社会の創造が求められていくと思う。</p> <p>【李委員】 外国人が年々増えた状況の中で、防災情報や対策など伝える方法の難しさ</p> <p>【圓谷委員】 セーフコミュニティ、ダイバーシティ、SDGs推進と世界規模の動向を捉えてまちづくりの視点としている。その最たる基盤は安全安心なまちであり、地域としての具体的な取り組みが必要である。</p> <p>【鈴木隆委員】 高齢化と空き住宅の増加</p>	<p>【中田委員】 地域課題解決に向けて仕組みの想定を具体化する必要があるのでは。地域課題解決の一つとして、地域社会の後継者となる子どもの成長支援と、高齢社会における高齢者の健康で充実した生活促進とを、いかに両立させ展開するかといった課題がある。この両立を可能とする仕組みを考える観点の一つとして、地域学校協働活動の展開が示されているが、魅力的な実践を可能とする仕組みの具体化が必要だろう。</p> <p>【李委員】 日本語支援団体や受け入れ先の企業を通して外国人の防災意識を高める。</p> <p>【圓谷委員】 ①ゲリラ化する災害に対応するための整備は多面的に進められている。公民館や町内会を主体とした防災意識のための事業推進がさらに必要である。 ②ふるさとを愛する子どもたちをどのように育てていくかということも、まちづくりの中で展開していくべき視点の一つではないかと。</p> <p>【鈴木隆委員】 町内会・連合会で防火・防水、救命訓練の実施。下水路掃除や近所の高齢者の声かけも。</p>

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
		(5)高等教育機関との連携	①大学や研究機関等との連携 ②他分野との連携による教育機会の創出	<p>【李委員】 児童生徒は大学や研究機関に直接触れる機会が少ない</p> <p>【圓谷委員】 高等教育機関のみならず、キャリアを持つ企業人材、伝統を継承してきた職人との連携による教育機会の創出も必要である。</p> <p>【鈴木隆委員】 市内の研究機関、産業等への関心をもつ</p>	<p>【李委員】 他分野の企業や研究機関での見学、体験など増やす</p> <p>【圓谷委員】 専門的知識、技能を持つ人材と青少年教育、リカレント教育の連携事業の推進</p> <p>【鈴木隆委員】 ①大学の発表会に地域の見学受け入れ。 ②公共機関や施設等にグループ見学受け入れ</p>
生涯学習全般に関すること			<p>【國分委員】 アンケートについて、生涯学習について何なのか分からないという方が多かった。生涯学習について市民の方に認知していただく啓発をしていく必要があるのでは。</p> <p>【李委員】 ①生涯学習は自分自身のための学習だけでなく、成果のある学習、更にその学習成果を生かせることにもっと意義があるだと思います。学習成果を地域につなげることで、地域の活性化に促進する。更に多くの方がそれに感心を持ってもらい、地域を支える人材育成にも繋がります。 ②「郷土愛」を育てよう! 最近、各地でネットワークを通して、人と人とのつながりかなり力を注いでいるが、このつながりの基盤であるのは人と地域のつながりだと思う。地域活性を担う人材はこの地に愛着や愛情を持ってなければいけない。でないと、みんなだんだんその地域から離れていく。 「郷土愛」は突然に生まれたものではなく、小さい頃目にした家周りのきれいな山川、毎日口にした美味しい料理、つい口ずさんだ校歌…などなど少しずつ重ねてきた実感から育てられたものである。ただこれらはほとんど無意識にしていることで、「郷土愛」を育てるには物足りないと思う。地域の良さを持ってたくさんの方に知ってもらい、誇りに思ってもらいは、幼少期から故郷を大切にすることが最も重要だと思う。そして、文化や伝統を継承するには学校、家庭と地域の連携も欠かせない。更に、地域の取り組みにも関心を持ってもらい、関わってもらえるような仕組みにしなければならない。 「郷土愛」が育てられることによって、地域の団結力が高まるだけでなく、地域の魅力として外部からの移住定住にもつながる。地域活性化の第一歩である。 ③郡山ユースワークショップについて、子どもたちが自分の考えを出せる場所・機会をこれからもたくさんつくってあげたい。子どもだけでなく、市民のいろいろな目線で、若者たち、年配の方など、同じことであってもそれぞれの立場で見方が違ってくると思うので、後々で誤解するよりは、このような機会をつくって、皆さんで同じテーマについて意見を出し合うといい。</p> <p>【圓谷委員】 ①第3期の達成度の高いものの継続・維持とより市民のニーズに応える具現策としたい。 ②郡山ユースワークショップについて、中学生はどういった未来を描いているのかという生の声を聞き、さらに、その対象を一般市民に広げて、いろいろな層の方々のご意見を直接伺う機会を持った上での振興計画の策定というのは必要な部分ではないか。 ③アンケートの調査結果と事業評価結果一覧の詳細版を見て、現状における課題や今後重点的に取り組むべき事項について、どの分野も積極的な情報発信が必要だろうということ、発信する側が表現力、構成力、技術力等を持っていないと、周知がなかなか広がらないのではないかという感想を持ちました。</p>		

II 生涯学習(第2分科会)

基本理念	基本目標	施策	施策の展開	現状における課題	今後重点的に取り組むべき事項
			生涯学習全般に関すること	<p>【鈴木隆委員】</p> <p>高齢者になっても100才時代、元気な人の興味関心ごとを受け入れ健康寿命を延ばせる郡山に。郡山市が、今後とも住みたい市、安全安心の市、働ける場のある市であることが大事。①過年の、大雨による洪水地域の改善(地球温暖化で今後とも発生の可能性大)(阿武隈川、亀田川等の川底の浚渫を、日ごろすすめる。泥等が溜まりすぎ)安心して住める地域に、洪水に遭わない工場地域が大事です。</p> <p>②子育てに理解のある企業主、経営者の多い郡山市にする学習会の勧め。(青年会議所他、ライオンクラブ等、組織に働きかける。…休みが取れる会社)</p> <p>③入所・入園等を希望する乳幼児をすべて受け入れられる郡山市…出産数増加に(一般の子育て経験者が引き受けることは、難しい世の中である)</p> <p>④今後とも子育て(医療、行事、経験者の声など)に、活用したい「広報・こおりやま」スマホにも紹介し、広報に「スマホでもご覧できます」と、活用を促す。</p> <p>広報「こおりやま」に「パパ・ママむけ」、「小中生むけ」、「実年・高齢者むけ」として、情報を区切ったらどうでしょう。</p> <p>⑤公民館を、会議等の活用他、「自由に、おしゃべり室」を設定し、地域の退職者等が気楽に集まり、情報交換等で気分を紛らわしたり、専門技術の経験を話したりで、共に役に立ったり、楽しんだりの「部屋の設定」があったら、「いってみるかな」「だれかいるかな」と楽しい時間をすごせるのではないかな。下校後の小学生も触れ合える</p> <p>⑥児童クラブに入っていない小学生には、宿題や読書の場の提供に空き教室、公民館を。帰宅後でも、下校途中でも…近所に友達がいない子どもが多い。(児童数減少の昨今)</p> <p>⑦肥満児対策を考えたい。(学校での下校時までの中では、運動量は限られる)</p> <p>菓子やジュースは「ご褒美」の時にかぎり、手作り三度の食事が大切と何かで知らせたい。季節ものや簡単にできるお勧めメニューなどの紹介も。</p> <p>下校後の運動は、クラブに所属していない子どもはどうしても、スマホ、ゲームに長時間費やすようです。知識は高まってもじっくり考える力が成長しない傾向が見られるとの情報を目にします。便利な機器やおやつが成長をマイナスに…は残念です。</p> <p>8月8日当日も申し上げましたが、「夏休み、保護者半数「ストレス」題した8月1日付け読売で、「夏休みの子どもに感じるストレス」として①長時間のスマホ・ゲームの使用;46,7% ②生活リズムの乱れ;44,8% ③食事の準備や片付け;35,1% また、夏休みの宿題に生成AIを使用することに反対する保護者;41%など スマホの利用に、子どもも了解する家庭内での利用約束事は大切だと思います。</p> <p>7月2日の鈴木寛先生の、PISAの日本の学力の向上が紹介されましたが、過日の日本での学力は低下しています。端末機使用についての自制心の向上が求められています。(いろいろ書きましたが、どれも解決は難しいです。)</p> <p>⑧8日の会合でもありましたが、「日本語指導」「社会における外国人受け入れ」にはどの程度対応されているのでしょうか。かつて近隣の学校で、昭和55年のことでしたが、中国からの帰国子女(6年生)でした。中国では英語教育は結構進んでいました。また、漢字だと共通理解できるところもありましたので、少しは通じたかなと思う毎日でした。現在は、自動翻訳機が安価で手に入ります。郡山でも外国からの子どもも年々多くなっているようです。安心して郡山の社会、学校に受け入れられる環境が大切だと思います。できれば日本語指導の教員の配置がほしいと思われまます。これは、「自分が、全く知らない国に住むことになったらどうか」をわが身にとらえ、外国人も住みよい郡山を真剣に考えたいものです。学校は勿論、職場や隣組、町内会なども含めて考える必要があります。</p>	